



一般社団法人
名古屋工業会

会誌

ごきそ

No.522

2025 春号

N.I.T.リレー

講演会の報告
支部总会報告
交流サロン開催報告
ゴルフ大会報告
活動報告

学生ひろば

学生表彰

交流コーナー

随筆
お茶の間川柳
ごきそで脳トレ!
クロスワード・お天気豆知識

総会開催のお知らせ



2024年11月 第33回中部学生アイスホッケー選手権
日本ガイシアリーナにて



CONTENTS

N.I.T.リレー

講演会の報告

- ・OB・OGトップセミナー報告…………… 1

支部総会報告

- ・2024年度 三重支部総会開催報告…………… 7
- ・2025年度 名古屋支部名古屋工業会東海地区新年互礼会の報告…………… 8

交流サロン開催報告

- ・第18回 大阪支部交流サロンの開催報告(Web講演)…………… 9

ゴルフ大会報告

- ・第140回 名工大ごきそ会報告…………… 10
- ・第6回 広島支部ゴルフコンペ開催報告…………… 11

活動報告

- ・2024年度 名工大CE会活動報告…………… 12
- ・永年勤続退職者表彰…………… 13

- 計報…………… 13

学生ひろば

学生表彰

- ・名古屋工業会基金 学生Q1ジャーナル賞表彰式…………… 14

交流コーナー

随筆

- ・英国在外研究記 柔軟で余白のある都市文化と職場文化に身をおいて…………… 15

その他

- ・お茶の間川柳…………… 18
- ・ごきそで脳トレ!クロスワード・お天気豆知識…………… 19
- ・ごきそで脳トレ!クロスワード・お天気豆知識 解答…………… 20

総会開催のお知らせ

- ・2025年度(令和7年度) 一般社団法人名古屋工業会定期総会及び会員総会の御案内…………… 21

N.(仲間と) I.(いつまでも) T.(つながろう)リレー

総会などの開催予定や
各支部及び単科会等の
活動について御紹介します。

講演会の報告

アンリツ株式会社先端技術研究所長・理事 CTO 野田 華子

OB・OG トップセミナー報告

2024 年 12 月 4 日(水)、名古屋工業大学 5111 講義室において、OB・OG トップセミナーが開催されました。本セミナーでは、アンリツ株式会社先端技術研究所長・理事 CTO の野田華子氏をお迎えし、「学び続ける」というテーマのもと、ご講演をいただきました。特に産業論を履修する学生を中心に 200 名以上の方々が聴講され、熱心な議論が交わされました。

【略歴】

1992 年 3 月 名古屋工業大学大学院 工学研究科 電気情報工学専攻修了
1992 年 4 月 アンリツ株式会社入社
2016 年 4 月 技術本部 技術企画部 部長・先進開発センター長
2019 年 4 月 理事 CTO 就任

「学び続ける」

私は、大学、会社で様々なことを学んできました。本日は、私の人生で転換点となったこと、影響を受けた言葉、出会いなどをお話しします。



野田 華子氏

1. アンリツ株式会社の紹介

アンリツ株式会社(以下アンリツ)は 1895 年に創業した老舗企業であり、「誠と和と意欲」を経営理念に、“オリジナル&ハイレベル”な商品・サービスの提供を通じて、安全・安心で豊かなグローバル社会の実現に寄与しています。エンジニアとして、オリジナリティと高度な技術の両立、そして何より誠実な社員が多数在籍する点が非常に魅力的です。

弊社は通信計測事業を中核とし、そのビジネスの約 7 割が海外向けである、グローバル企業です。たとえば、スマートフォンの開発・製造に必要な各種測定器の企画、開発、製造、販売をはじめ、自動運転の支援、データセンターの発展、食や医薬品の安全管理、さらには河川の映像監視など、多岐にわたる分野で、社会の基盤を支える役割を果たしています。また、私が所属する先端技術研究所では、グラフェンの応用や次世代通信規格である 6G に向けた先駆的な研究が進められており、未来の技術革新に寄与する重要な拠点となっています。

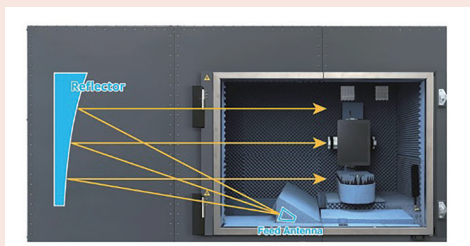
弊社ソリューションの具体例を紹介します。5G 端末の特性評価ソリューションでは、28GHz 以上の高周波電波の特性を正確に測定するため、小型の電波暗箱と専用測定器を組み合わせたシステムを開発・提供しています。スマートフォンやタブレットからは電波が全方向に放射されるため、固定された受信アンテナと端末の

回転を組み合わせることで、全方位からの電波を効率的に取得し、受信結果を 3D 画像として視覚的に確認するとともに、数値データによる品質評価を可能にしています。

電波測定には「遠方界測定」と「近傍界測定」という 2 つの



5G 端末の無線特性を評価するソリューション



Compact Antenna Test Range (CATR) チャンバーの構造

主要な手法があります。遠方界測定は、送信源から十分に離れた位置で平面波としての電波を測定する方法ですが、その反面、広大な測定環境が必要となるという欠点があります。一方、近傍界測定は対象から約3λの距離で振幅と位相を取得し、これをもとに逆フーリエ変換を行いアンテナの指向性を求める手法です。なお、ここで用いられる CATR (Compact Antenna Test Range: コンパクトアンテナ試験環境) チャンバーは、凹面を利用して放射された電波を近傍で平面波に変換し、測定環境を効率的に縮小するための装置です。現在は、6G 向けに 100GHz 超～ 300GHz 帯の周波数利用を見据えた研究開発にも積極的に取り組んでいます。

また、弊社のプロダクツ・クオリティ・アシュアランス事業では、食品への異物混入防止や内容量均一化のための検査・検量機器、さらには近赤外線を活用した錠剤の成分チェック装置など、最新の技術を駆使した製品を提供しています。X線検査機では、食品内部を透過した画像に高度な画像処理技術を施し、例えば鶏肉内の軟骨を検出するなど、画像処理と AI 技術の融合により、これまで困難とされた検査を実現しています。センシング&デバイス事業においては、自社内でデバイスの開発・製造を行い、通信計測事業の競争力を支える重要な要素となっています。将来的には、6G、産業計測、EV・電池、医薬品・医療といった新たな分野への事業展開を計画しています。

2. 自己紹介

私自身は、愛知県海部郡七宝町、津島市、桑名市を経て、現在は神奈川県横浜市に在住しています。名工大電気情報工学専攻においては生体電磁工学を専門としました。1992年4月にアンリツに入社し、以来、数々の技術分野で経験を積んでまいりました。家族は夫と子どもがおり、趣味は陶芸、金継ぎ、3D プリント、海外旅行、海釣りなど多岐にわたっております。モノづくりへの情熱は今なお変わりません。



趣味の釣りでタイを釣り上げる様子

3. なぜアンリツを選んだのか



聴講する学生たち

学生時代、自身の研究テーマを継続できる企業は非常に限られていました。その企業では女子枠が用意されていたため入社が可能な状況でしたが、恩師から「女子枠を利用すると一生『女子扱い』になる」という助言を受け、特別扱いは嫌だと思い、その企業への応募は断念しました。その後、アンリツを訪問した際に「アンリツはそれほど規模がおおきくないので、何にでも取り組んでもらいます」との説明を受け、自分の能力を磨く絶好のチャンスだと感じ、入社を決意しました。入社後は多くの挑戦の機会に恵まれ、成長できたと思っています。

4. 私自身のキャリア形成 ～名工大編～

大学入学後、高校時代の学習方法からの適応に苦労しましたが、当時の厳しい進級認定制度を乗り越え、無事に3年次に進級しました。就職説明会で「優秀な人は即戦力として就職、そうでなければ大学院でさらなる学びを深めるべきだ」という助言を受け、大学院進学を決意。当然のごとく推薦枠には入れず一般入試に挑戦し、勉強の末に合格した経験は、その後のキャリアにおいて大きな糧となりました。

5. 池田研究室での学び

電気情報工学科池田研究室では、「微弱電磁波の生体への影響」をテーマに、ザリガニの解剖、神経節の抽出、プローブを用いたマイクロ波照射とその反応の観測など、実験に精を出しました。年間約500匹のザリガニを対象に、実験を行いました。電子レンジのような温熱効果とそれ以外の要因での刺激反応を検証しました。また、研究室では、EMC (電磁両立性)、高周波回路設計、デジタル信号処理 (Digital Signal Processing) など、複

数の研究テーマに取り組む仲間がおり、ゼミでの知識は後のキャリアにおいて非常に有用でした。研究室での経験は、学問だけでなく、麻雀やテニス、食事の席での交流を通じた協力と人脈作りの大切さも教えてくれました。

6. 私自身のキャリア形成 ～アンリツ編～

入社後、初めはプログラミングによるデジタル信号処理（DSP）の業務に従事しました。入社当初はアナログ回路設計を希望していましたが、上司の「これからはデジタル信号処理の時代だ!」という言葉により、ゼロから新たな分野に挑戦することとなりました。3年間デジタル信号処理に従事する傍らアナログ高周波設計への情熱を示し、その後、3GHz までの受信機シンセサイザ設計に携わる機会を得るなど、多くの挑戦と成功を経験しました。

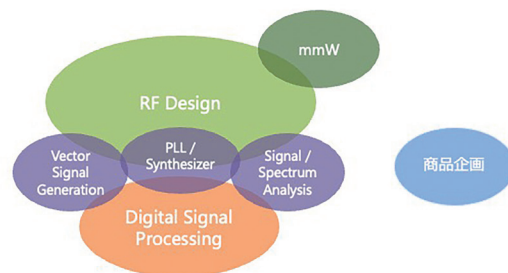
次に、有線系の計測器事業部では 40G BERT（Bit Error Rate Tester: 誤り率測定装置）の開発に従事しました。それ以前の 3GHz の 10 倍を超える周波数帯での回路設計に挑戦し、メリーランド大学での 6000km 周回実験に参加、世界初の成果を収めることができました。2002 年には無線系計測器事業部の開発部門へ異動し、変調信号発生器（VSG）の開発でプロジェクトリーダーを任せられ、2004 年に製品を市場に送り出しました。2005 年には、技術系初の女性課長に昇進し、2006 年にはマーケティング業務に従事するなど、多彩な経験を積んでいます。さらに、産休・育休を経た後、通信教育を通じて芸術系の学位を取得するなど、自己研鑽を続けてまいりました。

2011 年に研究部門へ移り、100GHz 超のスペクトルアナライザの開発に取り組んだ後、2015 年には先端技術開発本部長に、2019 年には理事 CTO へと昇格し、内部昇格で初の女性役員として企業の発展に寄与しています。これまで、Digital Signal Processing、PLL/Synthesizer（位同期回路・局部発信器）、ベクトル信号発生器の開発、RF（Radio Frequency：高周波無線）設計、さらには 100GHz 以上の信号取り扱いなど、多岐にわたる技術を磨いてきました。

こうやって見ると、私には何か強い専門性があるわけではなく、多角的にものごとを捉えられること、技術の組み合わせができることが私の強みだと思っています。進む道は人それぞれですが、何か一つものすごい強みを持つこともよし、いろんなことに挑戦して多面的に見る力を持つのもよし、技術者として様々な方向性があると思います。

30年で培った私の専門性

私の専門分野



いろんな角度から物事をとらえる、解を導く、技術を組み合わせる

30年で培った私の専門性

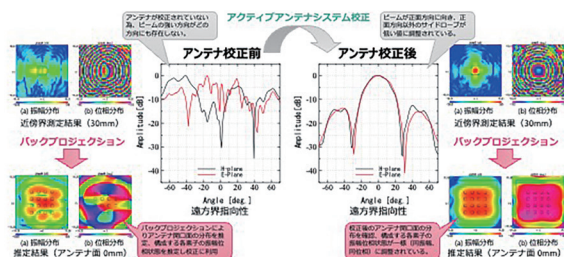
7. 技術的な話題

近傍界測定の発想の転換 その1

少し技術的な話をします。5G から複数のアンテナ素子を組み合わせた多素子アンテナが用いられるようになってきました。システム全体の性能向上のためには、各アンテナ素子から放射される信号の振幅を均一化し、全素子の位相を一致させるキャリブレーションが不可欠です。しかし、従来は全ての組み合わせを試す長時間にわたる調整が必要で、その作業は非常に困難でした。

近傍界測定の発想の転換

4 x 4 素子のアンテナを作成し、その位相と振幅をランダムに設定し、測定→調整を繰り返すことによりアンテナ校正に成功。（9回指向性、最悪でも4回目に第1サイドローブまでを±1dBに抑えることができた）



大学で学んだフーリエ変換が活かされました！

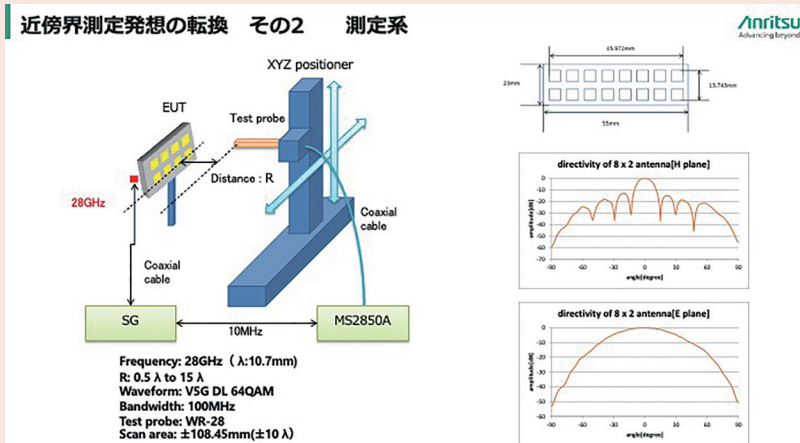
近傍界測定の発想の転換 その1

私たちのチームは、この課題を解決するために、フーリエ変換の理論に着目しました。まず、近傍界で各アンテナ素子の振幅と位相を測定し、そのデータに逆フーリエ変換を適用して遠方界の指向性パターンを求めます。さらに、得られた指向性パターンに対して再度フーリエ変換を行い、送信アンテナからの距離をゼロと仮定した場合の、アンテナ表面の理想的な振幅・位相分布を導出しました。このプロセスにより、各素子の校正状態を正確に評価し、迅速にフィードバックすることで、振幅・位相のバランスを効率的に最適化することが可能となりました。

近傍界測定の実験の転換 その2

近年、無線通信技術の進展により、周波数の上昇やアンテナ素子数の増加が進む中、従来の基地局と各アンテナ素子を個別に接続するケーブルは不要となり、アンテナが一体化したシステムが主流となりました。その結果、信号はアンテナ全体を介して送受信されるため、アンテナの指向性や放射電力（EIRP：Effective Isotropic Radiated Power）の測定は、近傍界で実施される手法が確立されていました。しかしながら、従来の近傍界測定手法では、信号品質の評価、特に EVM（Error Vector Magnitude：誤差ベクトル）の測定に対応できないという制約があり、この点が近傍界測定を取り入れるための大きなネックとなっていました。

そこで、私は、机上検討および実験を通じ、近傍界測定が EVM の評価にも十分に対応可能であることを実証しました。この結果、近傍界測定は単に遠方界の指向性や EIRP の評価に留まらず、幅広い測定ニーズに応える有用な手段であることを示すことができました。できないをできるに変えるにはどうするかを考え、実現したわけです。



近傍界測定の実験の転換 その2 測定系

8. 私の人生の転換点と影響を受けた言葉・出会い

なんでも面白い、生活力のある母は強かった

母は、好奇心旺盛でモノづくりが大好き、そして何事にも面白い人でした。大学院進学を決意した際、父は反対しましたが、母は快く賛成してくれました。母の生活力と前向きな姿勢は、私が新たな挑戦に踏み出す大きな原動力となりました。母への尊敬は今も変わらず、彼女の生き方を目標としています。

趣味と仕事は別にしたほうが良い

ある講義で、恩師から「趣味と仕事が同じだと、もし仕事を失えば趣味まで失ってしまう。だから、別々に考えるほうがよい」という助言をいただきました。当時、私は楽器が好きでトランペット職人になる妄想を持っていましたが、その言葉を聞いてそれを断念し、別の道を模索する決断をしました。この経験は、後の人生で仕事だけではなく趣味もきちんとともに重要性を教えてくださいました。

課題抽出力が大切

恩師からは「与えられた課題をこなすだけではなく、自ら問題を見つけ出せる力が必要だ。大学院の2年間はのための訓練の場としてほしい」という言葉をいただきました。この教えは、卒業研究や修了研究に取り組む際はもちろん、社会に出てからも自ら課題を発見し解決する姿勢を持つ大切さとして、今も私の行動指針となっています。

これからはデジタル信号処理の時代！

私は以前より、アナログ高周波の見えない難しさに魅力を感じていました。一方で、プログラミングは、失敗の要因が少なく、面白さに欠けると感じていました。しかし、アンリツでの経験を通じ、同じ機能をアナログ回路とデジタル信号処理（プログラミング）の両手法で実現する機会に恵まれ、複数の視点で物事を見ることの重要性を感じました。最近では高速 GPU の登場により演算スピードが大幅に向上し、画像処理や AI 技術の発展で、これまで実現不可能だったことが可能になっています。ハードウェアの進歩とともに、ソフトウェアの醍醐味も広がっていると実感しています。

仕事を任せ、責任をとる

入社後2年ほどのとき、信号処理のプロジェクトのサブリーダーを任されたものの、プロジェクトが予定期間内に完了せず、お客様にご迷惑をおかけする事態がありました。その際、上司は自らお客様の叱責を一人で受け、私には「お前に期待しているから」と励ましてくれました。これを機に、私は部下を信頼し、仕事を任せた上で、自ら責任を負う上司になりたいと強く心に誓いました。

指示はせず、目的だけ伝えて任せる

あるとき、海外出張中の上司から「あなたの担当しているアンプはお客様に提供できますか？」という電話を受けました。お客様の要求をしっかりと理解した上で回答しようとする、上司は「では、任せた！」と言ってくださいました。お客様（メリーランド大学）とのやり取りを進める中で、周回実験において出力パワーが不足していることが明らかになりました。そこで、周囲のエンジニアを巻き込みながら、出力パワーを補うアンプを構築し、評価実験系を整備しました。結果、世界初の6,000km周回実験に立ち会うことができました。この経験を通じて、「任せられた」という信頼を実感し、自らの覚悟を決めるに至りました。

リスペクト

エンジニアとして技術に真摯に向き合うこと、そして何より仲間を「リスペクト」することは極めて重要です。グループで仕事を進める際、仲間同士の信頼と尊重が全体の力を結集させる原動力となります。一人でできる仕事には限界があるため、互いを尊重し協力する姿勢が、最良の成果を生む鍵だと感じています。

ゴールから発想する

計画は、現在を起点に立てるものではなく、最終目標（ゴール）から逆算して策定すべきだという考え方です。納期に間に合わなければ仕事にはなりません。ある日、上司から「今日は展示会か？俺なら行く前にレポートを書くだろう」と言われたことが印象に残っています。仕事はもちろん、会議や出張においても、スタート前に自分のゴールを明確に設定し、その仮説検証を行うことが、成功への道であると実感しています。

9. 現在までの道のりと大切にしていること、メッセージ

入社当初、思いもよらぬ形でデジタル信号処理に約5年間従事しましたが、その後、シンセサイザー技術を習得し、RFエンジニアとして確固たる地位を築くことができました。各業務を通じ、隣接する技術領域の習得が私自身の存在意義を高める貴重な経験となりました。

私は今後も、これまでに培った知識と経験を後進に伝え、次世代の技術者育成に貢献していく所存です。

皆さまのさらなるご活躍を心より期待しています。

質疑・応答

【質問】2年 社会工学科環境都市分野の学生

アンリツの“オリジナル&ハイレベル”をめざすというのは、普段の仕事をしていて、どういうところで感じるのか、教えてください。

【回答】

普段から少しでも高い性能、高いレベルの仕事、エンジニアとして良い仕事がしたいと思っています。性能が高いから良い製品というわけではありません。お客様が望むものを提供することです。

リングが欲しいとおっしゃるお客様が、本当にリングが欲しいのか、のどが渴いているのか、赤い良い匂いのするものが欲しいのか、何が欲しいのかというところをよく考え、お客様が欲しがっておられるものを最高の形で届けたい、そのために必要な技術があれば自分たちで獲得するなり、外に出向いて教えを乞うなりします。それはすべてハイレベルへのこだわりだと思っています。

オリジナルがいつも良いわけではありませんが、我々にしかできないものは何かということを絶えず考えています。

【質問】 2年 生命・応用化学科の学生

出張等の前にレポートをつくるようになったというお話がありました。学生実験でのレポートに当てはめてみると、実際に見ていないものを事前に調べて書くというのは難しいのではないかと思います。

何か意識していること、気を付けるようにしていることはありますか。

【回答】

学生実験とは違うかもしれませんが、我々が普段外出しお客様とお話しをするときに、お客様は今どのような業務に従事されているのかを理解し、お客様の課題を想定し、どのようにその解決に寄与するのかの仮説を立てて訪問します。

学生実験で仮説を立てるとすると、理論値から外れた時のために、どこに問題がおきそうなのか、実験条件における因果関係を事前に考えておくとういと思います。

【質問】 2年 社会工学科建築分野の学生

ずっと働いてこられて、どうしてもやりたくなくて嫌になるとか、しんどくなってやめたことはありますか。その場合にどのように乗り越えられましたか。

【回答】

仕事として無駄だとか嫌だとか思ったことはありません。どの仕事も会社にとっては必要なことと理解していましたし、それぞれの仕事の自分の中での意義を見出しながら仕事をしていました。

ただ、会社を辞めたいと思ったことはありました。特殊な人間関係により無理な要求を押し付けられたときです。そのときにはギブアップしましたが、上司に今は辞めるかと留められました。それまでにそれなりに実績を上げてきたこともあり、次の場所を用意してもらいました。

一所懸命やって、成果を上げれば、誰かが見ていて手助けをしてくれます。



質問する学生



講演会の様子

支部総会報告

2024年度 三重支部総会開催報告

三重支部

2024年10月19日(土)、2024年度三重支部総会を津市のプラザ洞津で開催しました。特別講演、懇親会と続け、46名の会員に参加いただきました。

総会は、里支部長(C56)の挨拶に続き、本部から来賓として横山理事長にご挨拶いただきました。会誌「ごきそ」を全会員に配布し異動情報収集の取り組みを本部で進めるとの報告をうけ、2012年から基本的には入学生全員が工業会会員ととりなり増加しつつある若い会員との連絡が取れるようになっていくことに期待を感じたところです。

引き続き、令和5年度の事業報告、令和6年度の事業計画を全会一致で承認いただきました。

特別講演では、名古屋工業大学社会工学科 建築・デザイン分野 北川啓介教授から、『どこでも誰でも建てられる快適なインスタントハウス』と題してお話をいただきました。



参加者全員の集合写真



総会の様子

北川教授には平成30年にインスタントハウスについての講演をいただいておりますが、その後の実用化の状況、特に本年1月の能登半島大地震発生後速やかに現地に入りインスタントハウスを現地に届けられた取り組みなどについてお話を聞かせていただきました。能登では9月の豪雨で再度被災された方も多く、参加者は高い関心を持って聞き入っていました。

懇親会は、竹上真人さん(C61)に乾杯の発声をいただき、テーブル毎の自己紹介タイムや学科別の記念撮影なども交えながらにぎやかに懇親を深めました。

記:里 宏幸(C56)



北川教授を講師に迎えた特別講演会



懇親会での自己紹介タイム



土木建築関係学科の参加者(その1)



土木建築関係学科の参加者(その2)



電気情報機械関係学科の参加者



化学材料関係学科の参加者

2025年度 名古屋支部名古屋工業会東海地区新年互礼会の報告

東海地区では、2025年1月11日(土)、大学会館で新年互礼会を開催しました。招待客を含め130名の方々にご参加いただきました。

最初に、主催者を代表して名古屋支部の小山支部長が新年の挨拶をしました。続いて、大学を代表して小畑学長からご挨拶をいただくとともに名古屋工業会の横山理事長からもご挨拶いただき、2023年度名古屋工業会賞受賞者を紹介しました。続いて、社会工学領域の北川啓介教授から、能登半島地震・奥能登豪雨におけるインスタントハウス設置へのご支援にあたってのご挨拶があり、名古屋工業会の篠田相談役による乾杯の御発声により歓談がスタートしました。昨年に続いて、大学生協に手配していただいたステーキと寿司のライブキッチンが好評で、名工大第一軽音楽部 A.F.Q. の皆さんが、軽快なジャズの演奏で会場を盛り上げてくれました。

後半は、各単科会と鶴桜会、名古屋工業会受賞者、A.F.Q. の記念撮影を行いました。恒例のくじ引きでは、当選者の皆さんに豪華賞品をお渡し、上位の当選者にスピーチをしていただきました。

くじ引きで盛り上がった余韻もある中、学歌斉唱を経てフィナーレへ。名古屋工業会の仁科常務理事より中締めのご挨拶をいただいて閉会しました。

今回は学生や若い卒業生が例年より多く、世代を超えた交流が会場のあちこちで行われるなど、例年にも増して終始盛況の会となりました。

記:浅野 健 (A⑥)



篠田相談役による乾杯で歓談がスタート



今回も好評だった寿司のライブキッチン



第一軽音楽部A.F.Q.によるジャズ演奏



先輩たちに交じり若い人達も学歌を斉唱

交流サロン開催報告

第18回 大阪支部交流サロンの開催報告(Web講演)

大阪支部

令和6年12月21日(土)、会員相互の親睦と交流を目的に、若手・女性部会主催の「第18回名古屋工業会大阪支部交流サロン(Web講演)」を開催いたしました。若手現役やシニアも含めた楽しい交流会となりました。

東京ごきそサロンへの案内も行い、初参加の10名を含め、58名の多数参加となりました。懇親会はございませんでしたが、講演と質疑、懇談で約2時間の賑やかな交流会となりました。

講演タイトルは、『大阪・関西万博 大屋根(リング)の実現に向けて』と題して、中島正人(AH9、AM11(株)竹中工務店)様に、世界最大規模を誇るリングに焦点を当て、建設にどのように取り組んできたかを説明していただきました。中島様は、大阪・関西万博のPW西工区の作業所長をされており、万博の象徴であるリングの1/3と大小合わせて30棟の施設工事をご担当されています。昨年の名古屋工業会大阪支部総会での講演に続いて、大阪・関西万博リング建設に向けての苦労話などを熱く語っていただきました。

Web会議が初めての方には事前に接続テストも実施いたしました。

監修:中島 正人(AH9、AM11)・記:坪田 博隆(M51)



万博会場イメージパース:出典2025年日本国際博覧会協会



大屋根(リング)イメージパース:出典2025年日本国際博覧会協会



大屋根(リング)施工状況:出典株式会社竹中工務店

ゴルフ大会報告

第140回 名工大ごきそ会報告

名工大ごきそ会

第140回名工大ごきそ会は、令和6年12月6日(金)瀬戸市の丘陵に位置し、高速からのアクセスも良い品野台カントリークラブにて13名の参加を得て開催されました。当日は冬の寒さが戻り、かつ早朝からの開始と言うことで、固い体をほぐしながらのプレーとなりました。幸い風も穏やかで天候に恵まれ、午後早々にはプレーを終えることができました。

品野台カントリークラブは今回で3回目のコンペとなりますが、グリーンが早めに設定されており、スコアメークに苦しまされる人が大半でした。

この中で優勝は当クラブメンバーの平岡雄偉さんで、グロス88、ネット79の立派な成績をあげられました。メンバーとしての本領を発揮されました。平岡さんはベスグロ賞も獲得されました。準優勝者は今回ゲスト参加された、同じく当クラブメンバーの松浦富康さんで、グロス108、ネット79の成績でした。第3位は加藤倫朗さんで、グロス102、ネット80の成績でした。今回は1位から4位までが1点差の接戦になりました。BB賞は伊藤哲夫さんが獲得しました。特別賞として、ニアピン賞は泉地さん、加藤さん、梶原さんが獲得しました。バーディー賞は篠田さんが獲得しました。汗闘賞は伊佐治さん、大波賞は神谷さんでした。

今回は早めにプレーを終了できたので、懇親会もゆっくりと開催できました。和やかな中、次回の開催予定を決め散会となりました。

次回は、3月25日(火)梶原様のご紹介で緑が丘CCでの開催を予定しております。

ごきそ会では年4回、県内のゴルフ場でコンペを開催しております。ご興味のある方は幹事の山田(E-mail:kazuoy50@gmail.com)までご連絡ください。

記:山田 和男(E47)



集合写真

第6回 広島支部ゴルフコンペ開催報告

広島支部

2024年12月30日(月)、宮島カンツリー倶楽部にて、広島支部の第6回ゴルフコンペを開催しました。本コンペは年2回開催を目標にしていますが、2024年は記録的な猛暑が続いたこともあり延び延びとなり、前回と同様に、とうとう押し迫った時期の開催となりました。家内からは「年末の忙しい時期にゴルフに行くなんて」と極めて評判が悪く、会員からも「久しぶりに家族が揃うので欠席する」との連絡が相次ぎ、結局、前回と同じ2組(8名)の参加者でした。

優勝は、参加者の中では最年少の細越俊哉氏(Es-H4)がグロス 89(アウト46、イン43)、ハンディ16、ネット 73の好スコアで、過去2回優勝の実力者の村神哲也氏(F43)を1打差で抑えて、見事初優勝を飾りました。天候は12月とは思えない暖かさで風もなく最高のゴルフ日和で、先輩、後輩の垣根を越えて、皆さん和気あいあいとプレーを楽しみました。

次回は4月28日(月)を予定しており、多くの参加者を期待したいです。

記:大田 一夫(C47)

順位	氏名	OUT	IN	グロス	HD	ネット
優勝	細越 俊哉	46	43	89	16	73
2位	村神 哲也	41	40	81	7	74
3位	田頭 豊	48	51	99	20	79

スコア結果



優勝した細越 俊哉氏



集合写真

2024年度 名工大CE会活動報告

名工大 CE 会は社会工学科環境都市分野（旧土木工学科）の卒業生を対象として活動していた各地区 CE 会の連合組織として昭和 61 年に結成されました。各地区 CE 会支部組織には名古屋 CE クラブ、東京 CE 会、関西 CE 会、静岡 CE 会、岐阜 CE 会があり、総会員数は 7,800 余名にのぼります。

さて、2024 年度の活動報告をさせていただきます。2 年に 1 度の総会・講演会・懇親会を令和 6 年 6 月 8 日（土）15：00～より名古屋工業大学共 1 講義室にて開催いたしました。総会ではまず浅井慶一郎会長からの挨拶がありました。コロナ禍の影響を受けない久しぶりの OBOG 会の開催に対しての喜びの言葉とともに、会長は今年度で交代となるため、退任のお話がありました。次に来賓として出席いただきました小畑誠学長より挨拶をいただき、学長就任直後での今後の大学運営について説明いただきました。その後幹事長より会務報告、会計より会計報告がなされました。ここでの会務報告全体について、特段の意見もなく承認されました。ご協力ありがとうございました。

続いて、講演会に移りました。講師は富山県土木部高岡土木センターの見角潤朗氏で、講演題目は「とやま土木小史でたどる富山県の土木事業」です。講演内容の簡単な概要は下記のようになっております。

名工大CE会会報
第 34 号

令和 6 年 12 月
名工大CE会

2024年12月配布の会報表紙

1. 富山の土木小史

富山では三方が急峻な山に囲まれ、富山湾と山岳の距離が近いこと、河川が急流となっていて、洪水や土砂災害に悩まされてきました。また、1858 年の飛越地震により常願寺川上流の大鷲・小鷲山が大崩壊して、常願寺川で大きな土石流・洪水が発生し、富山平野に甚大な被害をもたらしました。この時期、治水を重点としたい富山側が石川県から分離独立して、現在の富山県が誕生するなどありました。常願寺川流域の治水課題に対して、オランダ人技師メルデルやオランダ人技師デ・レイケの参画、及びその計画を実現化した土木課長高田雪太郎らによる常願寺川等の大改修が継続して行われました。ここでは大変困難な河川改修を進めていく苦労や経緯について話されました。一方、水力発電開発事業が大正時代から進められてきて、昭和 12 年、民間事業も含む総発電力において、富山県は全国一の 53 万 5,000 キロワットとなりました。またこの豊富な電力を利用した 3 つの都市計画がすすめられました。

2. 「富山の土木」の現在

戦災復興事業（富山駅南地区）と LRT によるまちづくりや、富山駅北地区の運河環水公園事業による魅力ある親水公園整備および、富山駅付近連続立体交差事業など富山市民の生活利便性を向上する都市開発が大規模にすすめられました。

3. 「活力、未来、安心」のふるさとづくり

未来に続く富山県の事業として、東海北陸自動車道の 4 車線化高速道路網の整備や、日本海側の「総合的拠点港」伏木富山港の発展をめざす事業などが説明されました。また、「立山・黒部―防災大国日本のモデル―」事業では 2017 年 12 月 8 日に「日本の 20 世紀遺産 20 選」に選定され、「立山砂防施設群」が 3 番目（土木施設で 1 番目）に、「黒部川水系の発電施設群」が 4 番目に、わが国で学術的価値の高い遺産として選定されました。講演の最後に、今年発生した能登半島地震での被害状況と復旧など、災害への対応について、お話いただきました。

以上のように、富山県における土木事業の大きさと大変さには感銘を受けました。富山県では明治時代から最高レベルの土木技術を駆使して災害対策や都市開発が行われていたことを知ることができました。

最後に懇親会は大学会館 1F にて 16 時 50 分より行われました。牧野繁保新会長から会長就任の挨拶と学長から本日の講演会等の感想などのお話をいただきました。懇親会では久々にお会いする方も多く、皆さん大変有意義な時間を過ごしていただいたと存じます。本会はコロナ禍後の久々の通常開催となりましたが、参加者 60 余名のもと、盛会のうちに無事終えることができました。ご参加いただいた方、会の運営にご協力いただいた方にはここに厚く御礼申し上げます。

記：名工大CE会幹事長 藤田 素弘(C60)

永年勤続退職者表彰

名古屋工業会は、2025年3月24日(月)名古屋工業会事務局に於いて、永年にわたり母校名古屋工業大学に奉職され、貢献され退職される教職員14名に仁科常務理事より感謝状と記念品を授与しました。

授与者(敬称略)

竹下 隆晴、曾我 哲夫、菊間 信良、
神谷 庄司、内匠 逸、足立 俊明、
竹野 忠弘、早川 修一、尾崎 澄人、
竹内 辰巳、安形 保則、本下 要、
森口 幸久、犬飼 伸宏



名古屋工業会本部にて授与(当日は9名が御出席されました)

訃報

謹んで追悼の意を表します。

氏名	科卒年	逝去日
深見 正己	C21	R3.11.25
不破 昭	C23	
秋田 豊	C25	
荒川 尚晃	C29	R6.11.23
玉置 清	C30	R6.4.8
大川 洋一	C31	
奥田 光男	C31	R6.12.28
都築 孝行	C33	R5.7
森本 隆也	C35	R6.3.15
中島 安正	C39	R6.3
小川 恵一	C39	
高木 出	C40	
豊田 嘉久	C46	
長岡 久	C46	R2.6
新谷 一矢	C50	
恒川 義朗 (旧:佳男)	A34	R6
加藤 桂吾	A35	R6.9
倉森 治	A35	
杉村 修一	A35	R5.8.17
加藤 浩二	A36	R6.4.3
吉田 英彦	A36	R6.8.6
小野 尚純	M45	R5.8.21
佐藤 健三	M22	R6.6.25
深谷 卓雄	M22	
原田 博	M24	R6.2

氏名	科卒年	逝去日
坂本 忠雄	M26	R7.1.1
三宅 祐司	M28	R7.1.3
市川 郁夫	M36	H25.1
守安 澄治	M36	H26.2
安原 斉	M36	H27.1
池浦 正	M36	H27.11.17
大野 清一	M36	R4.4.21
金田 守加	M36	R5.1.23
岡 照雄	M36	R6.7.22
河野 晋	M39	R5.12
駒田 稔	M43	R6.3
大橋 五郎	E22	R6
杉本 利夫	E22	R5.4.20
本田 哲三	E29	R6.8
大鐘 鈺市	E30	R6.1.16
山田 悦弘	E33	R5
荒井 英二	E33	R6.5.29
藤井 徹也	E36	
小田切 啓幸	E38	R4.1
土本 眞市	W16	R5.1.15
近藤 幸雄	W31	
川口 文夫	W33	R4.1.17
夫馬 照治	W40	R6.9.25
小笠原 英信	D23	R5
廣井 正	D23	
高須 良二	D24	H27

氏名	科卒年	逝去日
伊藤 正延	D30	R5.2
斉藤 忠夫	D31	
柳澤 正彦	D31	R6.4.5
鈴木 毅	D33	R6.1.9
伊神 治朗	D34	R6.11.10
磯辺 昭博	D37	R6.6.10
稲熊 寿明	D40	R4.3.15
末利 鍊意	D41	R6.8.12
板倉 昭夫	D43	R3.9.10
伊藤 富二	D43	R3.11.24
劔持 堅志	G50	R4.3.30
黒田 勉吉	Y35	R5.12.27
北川 兎太郎	Y37	R4.11.1
畑中 公樹	Y40	R6
大西 雄三	K39	H27.6.1
吉村 裕三	K39	H30.6.3
近藤 克己	K39	R6.10.3
田畑 章	K39	R4.3.15
出口 武	K39	H27.12.16
近藤 克己	K39	R6.10.3
浜元 賢一	K39	R3.5.14
土井 康	F41	R6.9.1
池川 幸一	F49	R3
古谷 雄一	B41	R4.6
犬飼 (旧:木村) 次夫	Ⓚ23	

学生ひろば

本学で学ぶ学生さんたちの輝かしい
日々の活動など御紹介します。

学生表彰

名古屋工業会基金 学生Q1ジャーナル賞表彰式

名古屋工業会では、名古屋工業会基金の事業として、Q1 ジャーナル（上位25%に位置する高い論文誌）に投稿した大学院生を表彰する学生論文賞を2022年度から創設しました。

2025年3月18日（火）名古屋工業大学4号館会議室2に於いて、受賞した大学院生を表彰しました。

最優秀学生論文賞

- ・博士前期課程工学専攻生命・応用化学系プログラム2年 村田 裕祐



横山理事長祝辞

学生論文賞

- ・博士前期課程工学専攻生命・応用化学系プログラム2年 下司 翔
- ・博士前期課程工学専攻生命・応用化学系プログラム2年 中村 敏規
- ・博士前期課程工学専攻生命・応用化学系プログラム2年 堀部 元貴
- ・博士後期課程共同ナノメディシン科学専攻3年 川井 孔貴
- ・博士後期課程工学専攻3年 Islam Md Arif Ul
- ・博士後期課程工学専攻3年 LIU LIJIA



永田副学長から受賞学生へ賞状授与



謝辞を述べる受賞学生



表彰された院生、理事長、関係者



表彰された院生:左から中村さん、川井さん、村田さん、堀部さん、Islam Md Arif Ulさん

随筆

名古屋工業大学工学専攻環境都市プログラム 中居 楓子

英国在外研究記 柔軟で余白のある都市文化と職場文化に身をおいて

1. 都市データサイエンスを学びに UCL へ

2023 年 3 月から 1 年間、英国ロンドンにある University College London (UCL) の Centre for Advanced Spatial Analysis (CASA) で Affiliate Academic として在外研究の機会をいただきました。CASA は Bartlett Faculty of the Built Environment(通称 Bartlett) という学部の中にあります。Bartlett は都市デザイン、計画、建設、公共政策、エネルギー資源をはじめとした都市に関わる 13 の組織をもつ複合的な学部であり、400 名超の教員と 2,000 名を超える学部生大学院生を抱えています。QS 大学学科別ランキングの建築建設部門において 2023 年から 2 年連続で世界 1 位を獲得しており、英国国内では同部門で 10 年にわたり 1 位を獲得しています。CASA はその中でも都市データサイエンスの分野で世界をリードする研究組織です。25 名の教員と 14 名の研究スタッフ(技術職員やポスドク)、17 名の事務スタッフで修士課程以上のコース(授業中心の MSc コースと研究センターの MRes コース)を運営しており、世界中から 1,000 名を超える学生が志願し毎年約 130 名程度を受け入れています。

私は災害と都市を研究対象としており、これまでにフィールドワークと空間情報を活用したシミュレーションの研究を行ってきました。また、名古屋工業大学に赴任してからはカリキュラムとの整合性も意識して災害と都市に関する統計モデルや最適化手法に関わる研究を重点的に進めてきました。今後の中堅キャリアに向けてデータサイエンス面の技術をさらに磨くこと、さらに防災研究分野をリードできる力をつけるために国際的な文脈、特に気候変動適応との接点を作ること、都市の良さに関する議論やその分析に関わる研究者とのネットワークを作るという在外研究の目標を達成するうえで UCL CASA は最適場所でした。

2. 夫婦で同時に留学できた

30 代での留学はキャリアと家庭のバランスが悩ましいです。私は企業研究者の夫と互いの留学時期を合わせられるよう、2021 年頃からそれぞれの組織の状況を伺いつつ上司と相談をはじめ、2023 年 3 月にともに渡英することができました。まず、夫が 2023 年から 2 年間オーストリア・ウィーン、フランス・グルノーブル、英国・オックスフォードのいずれかに留学することが先に決まったため、これらの都市からを選ぶことになりました。私はこれまでにウィーンに留学したことがあり、当時のネットワークを使って留学することもできましたが、せっかくなら訪れたことのない都市に行ってみたい、グルノーブルにはツテがなく留学先を見つけるのが難航しそう、一方英国には都市の研究者や研究組織が多くなんとかなるかもしれない、ということでオックスフォード周辺を候補として留学先を探すことにしました。

その後、かつて英国に留学した知り合いを辿って情報収集を開始し、最終的に学生時代に副指導教官としてお世話になった岐阜大学の倉内文孝先生とそのご紹介で知り合ったキャンベラ大学の中西仁美先生にお力添えをいただき、UCL CASA の Sarah Wise 先生と連絡を取ることができました。まず Sarah に面接をしてもらい、さらに彼女とともに研究計画書を作成、提出することで UCL の受け入れの承諾をいただきました。受け入れ先を決めるまでにご協力くださった沢山の方々には深く感謝しています。

3. 仕事での通称使用が障壁に…ビザの取得の苦勞と解決策

私が取得したビザは Government Authorised Exchange Visa (Temporary Work) というもので、英国政府

から認証されている組織 (UCL はこれに該当する) がスポンサー証書 (Certificate of Sponsorship: CoS) を出すことでビザに申請する資格を得ることができます。

一緒に渡航する夫の会社では家族の帯同ビザ取得サポート体制があるものの被扶養家族限定だったため、今回は夫婦別々の個人として各自ビザの手続きを行うことになりました。会社からサポートを受けて難なくビザ取得を済ませた夫がうらやましかったですが、最終的に自力でビザ取得プロセスを突破した経験は英国の入国管理を理解する良い機会になりました。ただ、ビザ取得の不安と心労、情報検索の時間を考えるとビザ取得代行サービスに 4 ～ 5 万円払っても良かったと今になっては思います。

最も苦労したのは、渡航前の結婚のために改姓した本名と仕事上の通称との同一証明の問題です。日本のウェブサイト上には通称 (旧姓) を使用しながら英国ビザを取得するケースはなかなか情報収集は困難を極めました。この経験を踏まえ、今後誰かの参考になることを願って過程を記しておきたいと思います。まず、CoS の発行にあたっては英国の受け入れ機関に履歴書や研究業績一覧、学位記、現在の所属の ID カード、研究計画書、パスポート等を送り承認を得る必要があります。また、ビザ申請時には CoS に加え銀行口座の残高証明書を合わせて提出します。ここで各種書類の旧姓と現姓の同一性の問題が生じます。たとえば、学位記と現所属の ID カード等旧姓でしか発行されないものもあれば、銀行口座の残高証明やパスポート (※ 1) 等の現姓でしか作成できないものもあります。UCL の事務担当者側で、ビザ申請時は通称ではなく現姓に書類を揃えるのが安全だろうという判断になり CoS の書類は現姓としました。その際、UCL 側で旧姓と現姓の同一性が認められるように履歴書や研究業績一覧など可能なものは旧姓・現姓の併記で書類を作成したほか、旧姓でしか発行されないものに関しては UCL 側に同一人物であることを説明することで対応していただきました。つまり、より柔軟に対応できる大学側で現姓と旧姓の辻褄をうまく合わせていただき、最終的には現姓ですべての書類を統一したことになります。それでもビザ申請時に不安が残っていたため、念のため、旧姓と現姓の同一性を証明する書類として婚姻証明書も取り寄せておきました。

改姓にあたり「通称使用は不便ではない」という言説は様々な場で耳にしていましたが、これは諸活動が日本国内で完結するマジョリティ側のケースです。今回のビザ取得のプロセスの中で、一步外国に出ようとすると様々な障壁があるということを思い知りました。

英国のビザ申請は 3 ヶ月前から開始できますが、最終的には渡航の 2 週間ほど前まで申請準備が終わらず際どい日程であったため通常よりも短い 1 週間で審査が完了する 4 万円ほどの追加有料プライオリティサービスに申し込みました。ビザ申請のための費用は、Immigration Health Surcharge (IHS) (移民保険) 約 10 万円とビザ申請費用約 4 万円、翻訳証明 (アポスティユ認証なし) 約 1 万円、東京のビザ申請センターへの往復費用約 2.5 万円をあわせて 20 万円ほどかかりました。これらはすべて名工大の在外研究の予算で支払っていただき大変感謝しています。

※ 1 パスポートについては 2024 年 12 月時点において外務省のホームページに記載があるとおり、紙面上に現姓・旧姓併記ができるものの、IC チップ及び MRZ に記録されるものではないため、ビザ取得時には戸籍上の氏名を使う必要があります。

4. 英国の生活費と住宅事情

英国留学が決まると多くの先輩方からの第一声はだいたい「お金がかかるよ」でした。実際、円安の影響もあってそれを実感することも多かったです。

まず、基本的な生活のインフラ月額は日本の 2 倍以上です。たとえば、我が家の 12 月の通信費は £26、水道が £24、電気+ガスが £99 で合計 £146 (約 3 万円) でした。さらに、食費や交通費も同様に 2 ～ 3 倍です。

そして、特に深刻だったのが住居にかかる費用です。ロンドンやその近郊では住宅不足が深刻化しており、住宅価格の高騰が続いています。図 1 は英国の地域別の月額家賃の平均です。私は夫の仕事の都合によりオックスフォードで住宅を借りることになっていましたが、オックスフォードでは家賃の平均は £1,778 (約 35 万円) (2025 年 1 月 4 日現在) と日本と比べて高く、最も高いロンドンとほぼ同水準です。

住宅探しの大まかな流れは、まず Rightmove や Zoopla などのウェブサイトの良い賃貸物件があれば不動産会社にオファーを出し、内見予約、申し込み、審査、入居という流れです。良い物件はサイトに上がって 1 分以内に内見申し込みをするくらいの勢いでなければ内見予約すらできないため、仕事中でも目を光らせていなければなりません。一つの物件に対し多い場合で 20 人を超える希望者がオファーを出すこともあるため、

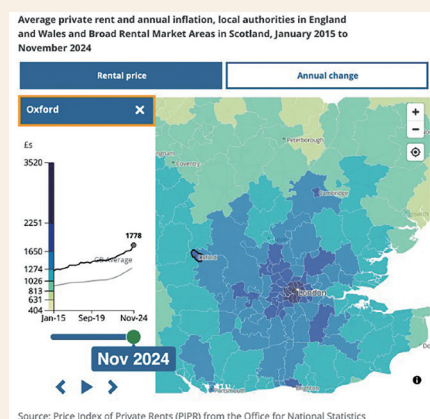


図:1 ロンドン近郊の平均月額家賃マップ

入居の可能性を高めるために 5～10%の家賃アップを提示するなどの戦略が求められました。それでも何度お断りの連絡を受けたかわかりません。最終的に入居した頃には渡航してから 1 ヶ月以上経過していました。

5. 食事はコミュニケーションの道具である

英国の食事があまり美味しくないという噂は聞いていました。実際のところ、英国において食事は人と人をつなぐ道具という側面が重視されており美味しさを追求するものではない、というのが一年の留学を終えた現在の私の認識です。ただし、探せば美味しいものは沢山あり、インド料理やタイ料理、中華料理などのレストランにはよく通いました。

ランチやお茶の時間、パブ会などを通じて英国では社会的つながりや会話に価値が置かれていると感じました。ちなみに、これは大学の経費のルールにも現れています。英国の研究会や組織の公式イベントではコーヒーやお菓子、食事が出ていましたが、それらはすべて主催者の公費で支払われます。対して日本の多くの予算では飲食費は支払えず、国際会議で食事が出た場合は参加費のうち食事代相当分は自費で払うことになっています。こうした違いは、飲食を社会的なものとして見る英国と個人的なものとして見る日本の文化から来ているように思います。

同僚たちと沢山話せる時間が私はとても好きでした。そのため、ランチやお茶の時間は毎回楽しみでした。渡英して最初の頃はランチのために美味しいと評判のベーグルを買ったりしていましたが、不思議なことに徐々にそうしたこだわりが薄れていき、スーパーマーケットの Meal Deals (£3～5 の飲み物、主食などの安価なセット) を買うことも増えました。味ではなく、一緒に食べて話すことに幸せを感じられるようになったとき、英国に馴染めたなと実感しました。

6. 英国で得たマインドセット

コミュニケーションを重視する文化から学んだことは他にもあります。その一つが交渉力です。英国ではダメそうに見えることでもとにかく「まずは意見を出してみる／聞いてみる」ということへのハードルが低いと感じました。日本ではルールは自分の意思決定にかかわらない外側からやってきてそれを守ることが前提になりがちです。しかし、英国ではルールは自分達で生み出すものであり、若手や学生であれ非合理的と感じれば改善を提案してよい、という雰囲気がありました。もちろん、提案が実現するかは別の話です。しかし、電車のトラブルや賃貸の困りごと、オフィス内のルールに至るまで交渉次第で好転するという経験が多々ありました。

もう一つは人との協力です。UCL CASA では多様なバックグラウンドと多様なキャリアステージの人々が集まる中で、お互いを補ったり、中堅やベテランの研究者から助言をもらったりしながらものごとを進める経験を積むことができました。私は在外研究中から英国と日本の大型グラントに挑戦しており、英国の都市データサイエンス、機械学習や AI、人文学の専門家を巻き込みながら国際共同研究チームの立ち上げを進めています。私が PI としてプロポーザルを出したもののいくつかありますが、プロポーザルの草稿に入れてもらった修正や意見の数はこれまでの研究生活の中でも明らかに多かったです。特に助教になってからは人の文書に修正を入れるほうが圧倒的に多く、他の人から具体的な修正意見をもらうことは少なかったのが貴重な経験でした。審査員を経験しているメンバーからは審査基準の観点から重要なことを沢山教えてもらうこともできました。また、大御所の先生からは適切な専門家を都度紹介してもらい、強力なチーム作りを様々な場面で助けていただきました。これまでのキャリアでは人に上手に助けを求められず、困りごとがうまく解決できないことが多々ありましたが、英国の同僚たちのフラットで協力的な関係性に身をおくことで「人との関係性の中で問題を解決する」ことのコツが分かるようになりました。このような関係性を日本でも築いていくことが帰国後の私のひとつの目標です。

7. 終わりに

学位取得後、名工大で働き始めて 5 年経過時点の在外研究は、私にとってまさに完璧なタイミングでした。イギリスで多様なキャリアパスの人々と出会う中で、これまで無意識に頭の中にあった「王道／標準のレール」が自分自身の限界を作り、「30 代のうちに〇〇をしないと」といった焦りやプレッシャーに繋がっていたと気がつくことができました。そして、不甲斐ない自分を一旦受け入れて、また色々と挑戦してみようという気力を取り戻すことができました。このような機会を得られたのは、ひとえに名工大の在外研究制度と、理解をもって送り出してくださった同僚のおかげです。支えてくださった多くの方々に心より感謝申し上げます。

参照ホームページ

Office National Statistics: Private rent and house prices, UK: December 2024,
<https://www.ons.gov.uk/economy/inflationandpriceindices/bulletins/privaterentandhousepricesuk/latest>

お茶の間川柳

～ 2025新春号の優秀作品（お題「朝食」）～

モーニング
夜まで提供
名古屋めし

名古屋っ子

「朝食」は
「夕食」なのか
夜勤明け

シルバー人材

朝食後
「昼は何だ？」と
聞く夫

主婦代表

以上3作品 おめでとうございます。
今回は21作品の応募がありました。
ありがとうございました。

会誌「ごきそ」お茶の間川柳募集

会誌「ごきそ」では、皆様からのお茶の間川柳を募集しています。日々の生活の中での、あんなことやこんなことを五・七・五の川柳にしてみませんか。見て、聞いて、考えて、お気軽に御応募ください。

お茶の間川柳ですので、堅苦しさは要りませんし、脳トレにもなります。優秀な作品には記念品を贈呈しますので、どんどん御応募ください。応募作品は自作、未発表のものでお願いします。応募方法は件名に「お茶の間川柳」としていただき、作品と雅号（ない場合は、本名を記載します。）のほか住所、氏名、電話番号、何年何科卒などを記入していただき、下記アドレスにメールしてください。

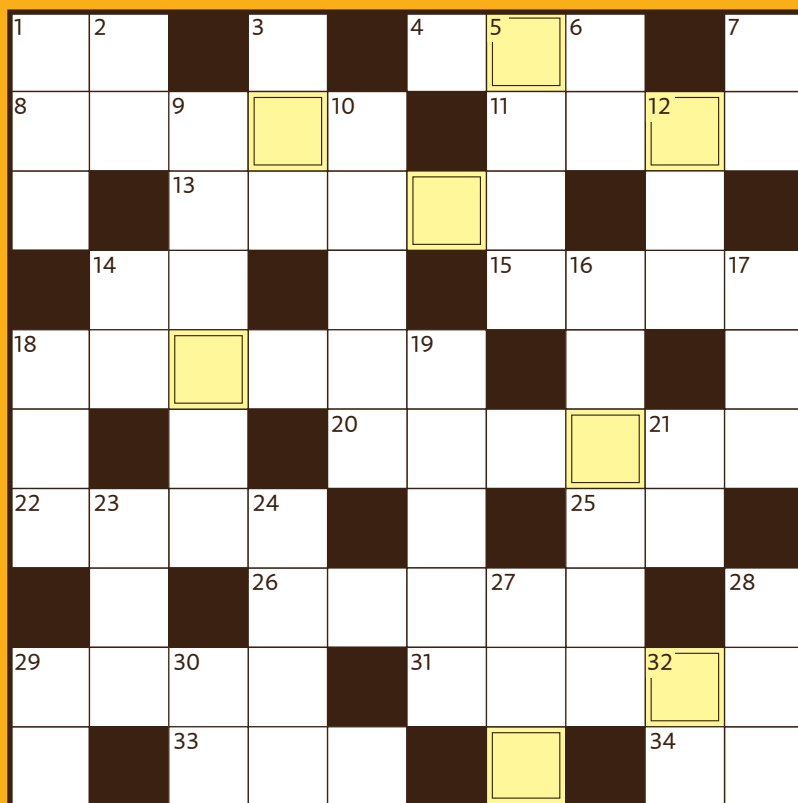
2025年夏号のお題は「**階段**」です。たくさんの御応募お待ちしております。

応募先メールアドレス：gokiso@lime.ocn.ne.jp 工業会事務局本部

クロスワードパズルを解き、
二重の四角の文字を並べ替え言葉を見つけましょう。

タテのカギ

- 1 先祖から伝わって受け継がれた家の血筋。「〇〇〇図」。
- 2 兄弟姉妹の娘。
- 3 一週間ごとのそれぞれの日の名前。
- 5 見識ある人。「有〇〇〇〇会議」。
- 6 細長い棒状で断面が丸く、中が空になっているもの。
- 7 ノートに字や絵を描くための筆記用具。
- 9 スケジュールを表にしたもの。
- 10 細かい点まで詳しいこと。
- 12 卵からかえって間がない魚。
- 14 翼を持ち、体が羽毛で覆われている動物。
- 16 患者の内臓の音を聴くための道具。
- 17 韓国の貨幣の単位。
- 18 前に戸があり、中に棚がある物を入れる道具。
- 19 心が引きしまること。争いが起きそうな様子。「〇〇〇〇〇感」。
- 21 馬に似ている小型の動物。ドンキー。
- 23 物事が行われる場所。「工事〇〇〇」。
- 24 パスポートを言い換えると。
- 27 現金や大切な書類などを入れておく頑丈な入れ物。
- 28 パソコン操作で使用するネズミのような器機。
- 29 形が虎に似た動物で、虎より小さい。
- 30 便利な器具・機械。「文明の〇〇」。
- 32 睡眠中に本当の出来事のように頭に浮かぶもの。



ヒント:直近では、4,127人の応募から2人が合格し、14年ぶりに誕生しました。

答え

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

正解者の中から抽選で**3名**の方に**記念品**を差し上げます。
解答、住所、氏名、電話番号、何年、何科卒を書いていただき、下記アドレスにメールしてください。なお、当選者の発表は、記念品の発送をもって代えさせていただきます。

応募先メールアドレス：gokiso@lime.ocn.ne.jp 工業会事務局本部

ヨコのカギ

- 1 爬虫類の一種。体は固い甲羅で覆われている。
- 4 畳を敷いた日本風の風景。
- 8 物事の性質・状態・感情などを表す品詞。「大きい」「楽しい」。
- 11 台所、調理場。
- 13 手をたたいて拍子をとること。
- 14 わからないことをたずねること。問題。
- 15 野生の鳥。
- 18 仕事で関係のある会社。
- 20 一般市民に知られない悪事を行っていることの推論。
- 22 破格で販売してしまうこと。
- 25 ゴルフ場の葉の細い草。
- 26 預金と貯金。
- 29 納豆のように物と物がくっつく性質。
- 31 乗り物の営業を休むこと。
- 33 ゴールドを主成分とする貨幣。
- 34 動物の性別で卵巣を持ち、妊娠・産卵する方。



天気予報でよく使われる天気図。高気圧と低気圧の記号の色は青、赤どちらで表示することとなっているのでしょうか？

1

高気圧は晴れた太陽の暑いイメージがあり赤、低気圧は雨の水のイメージがあり青。

2

高気圧は晴れの青空のイメージがあり青、低気圧は大雨による災害を引き起こす可能性があり、注意喚起のために赤。

3

好きな色を使ってよい。

クロスワードパズルの解答は次号にて発表いたします。

- 解答 -



答え

ス イ リ ク リ ヨ ウ ヨ ウ

(水陸両用)

〈2025 新春号掲載分〉

1	タ	2	チ	ヨ	3	ミ		4	テ	5	コ		6	ガ	ラ
		ヨ			7	ツ	8	チ		9	ピ	カ	ソ		
10	コ	ウ	11	ギ		12	ギ	13	タ	ー		14	リ	カ	
		15	セ	ン	16	ジ	ヨ	ウ		17	テ	ン			
18	カ	ン	シ	ヨ		19	エ	20	カ	キ		21	ジ		
	テ		22	ヨ	ウ	23	ジ		24	オ	リ	25	コ	ミ	
		26	フ	ウ		27	ド	28	ウ	リ	ヨ	ク			
29	モ	ト		30	ヨ	ウ	ス		31	ウ	リ	テ			
		32	コ	コ	口		33	ギ	34	ム		ヨ			
35	イ	口		36	イ	チ		37	ネ	ブ	ク	口			

タテの答え

- 2 朝鮮
- 3 蜜
- 5 コピー
- 6 ガソリン
- 8 稚魚
- 11 銀賞
- 13 田植え
- 16 情
- 17 適量
- 18 糧
- 20 香り
- 21 地味
- 23 児童
- 25 国力
- 26 懐
- 28 薄着
- 30 鎧
- 34 胸

ヨコの答え

- 1 立ち読み
- 4 てこ
- 6 柄
- 7 土
- 9 ピカソ
- 10 抗議
- 12 ギター
- 14 理科
- 15 戦場
- 17 天
- 18 カンショ
- 19 絵描き
- 22 用事
- 24 折込
- 26 封
- 27 動力
- 29 元
- 30 様子
- 31 売り手
- 32 心
- 33 義務
- 35 色
- 36 位置
- 37 寝袋



答え

2 10

〈2025 新春号掲載分〉

雲の種類は、国際気象機関(WMO)が示している、「10種雲形」が基本となっています。この10種類の雲は高さにより上層、中層、下層の3つに分けられています。上層雲:巻雲(けんうん), 巻積雲(けんせきうん), 巻層雲(けんそううん), 中層雲:高積雲(こうせきうん), 高層雲(こうそううん), 乱層雲(らんそううん), 下層雲:層積雲(そうせきうん), 積雲(せきうん), 層雲(そううん), 積乱雲(せきらんうん)。子供用ですがとてもわかりやすいので、URLを掲載しておきます。

<https://www.hitachi.co.jp/kids/kinopon/kinopontown/sky/03/page2.html> (リンク先掲載許可済み)



一般的な雨雲と言われている雲は乱層雲で高度は2,000~7,000mですが、低い時は200~500mくらいまで下りてくるときもあります。積雲や高度に発達する積乱雲は下層の雲に分類されています。

←こちらから読み込みも可

〈2025 春号(今号)掲載分〉

答え

3 好きな色を使ってよい。

気象庁では高気圧、低気圧の表記の色は決めていません。昭和56年に高気圧は青、低気圧は赤という内容の指針が出ていたようですが、その理由は不明であり、また、指針なので法的拘束力はありません。どちらを使っても構いませんが、近年、低気圧等による甚大な気象災害が頻発しており、注意喚起を促すためとして、日本の多数のメディアなどは、低気圧は赤色、高気圧は青色を使用しています。世界的に見ると、色分けしている国は少なく、反対に低気圧は青色、高気圧は赤色を使用している国もあります。

皆様方からの天気に関する質問を受け付けています。質問はメールで、gokiso@lime.ocn.ne.jpまで。

事務局長 気象予報士 三浦 栄一

総会開催のお知らせ

2025年度（令和7年度）一般社団法人名古屋工業会 定期総会及び会員総会の御案内

今回の総会・特別講演は、下記のとおり予定しております。参加申し込みにあたっては、名古屋工業会 HP の INFO お知らせ (<https://www.nagoya-kogyokai.jp>) を必ずご確認ください。

日	時:2025年5月24日(土)
場	所:メルパルク名古屋(名古屋市東区葵3-16-16 TEL:052-934-3535)

スケジュール

定期総会	14:00～15:00 → 代議員のみの総会です。
会員総会	15:15～15:55 → 一般の会員様は、会員総会以降の参加となります。
特別講演会	16:00～17:00
懇親会	17:20～18:30 ※ 懇親会費は5,000円です。当日受付へお支払いください。

定期総会

第1号議案	2024年度事業報告及び収支決算報告について
第2号議案	2025年度事業計画案及び収支予算案について
第3号議案	代議員の選任について
第4号議案	役員の選任について
第5号議案	その他

会員総会

イ. 叙位叙勲等表彰に記念品贈呈(正会員に限る)
ロ. 卒業満70年(S30年卒)、60年(S40年卒)、50年(S50年卒)、40年(S60年卒)の正会員への顕彰

特別講演会

講師:渡辺 研司 氏 名古屋工業大学教授
演題:「重要インフラに求められるサイバー・フィジカルセキュリティ
～地域内プロフェッショナル連携で日本を牽引する中部・東海地域～」

申込み方法

支部長、代議員の方には別途御案内しますので、申し込みは不要です。
電子メールにて下記事項を明記の上、お申込みください。なお、件名は「2025 総会申し込み」としてください。

①お名前 ②ID 番号(分からなければ不要) ③卒業学科と年度 ④御住所 ⑤電話・FAX
⑥電子メールアドレス ⑦懇親会の参加・不参加の別

◎申し込みアドレス: gokiso@lime.ocn.ne.jp 4月25日(金)〆切

※一般の会員様は、15時15分(予定)の会員総会以降の参加となります。

※議案等内容については、変更となる場合がありますのでHPで最新情報をご確認ください。

自動車分野で培った知識と知恵を チーム力で活かし、 技術課題と人材育成のソリューションを提供する

- ・**技術支援** ※1 100名のデンソー等メーカー出身者が、企画・開発設計・品質・生産技術・生産まで、技術課題のソリューションをお届けします。例) 設計デザインレビュー支援
- ・**技術研修** ※2 実務経験を活かした80講座を超える技術研修を取り揃え。リスキリングやeラーニングにも対応し、幅広く人材育成を図ります。例) 車載電子部品の信頼性研修

※1：上場企業30数社や中小企業様まで数多くの支援実績があります。
設計思想までを対象とするベンチマーキング業務も承ります。

※2：企業内研修・研修企画会社等のセミナーなど、累計で約1000件以上の研修を実施してきました。オンラインWeb研修にも対応します。

変革期を迎えたモノづくりに貢献する

株式会社 ワールドテック

代表取締役 寺倉 修 (F50)

〒460-0008 名古屋市中区栄5丁目28番12号名古屋若宮ビル
TEL: 052-211-7861 E-mail: solutions@worldtech.co.jp
http://www.worldtech.co.jp



会誌「ごきそ」に広告を掲載しませんか

会誌「ごきそ」は、年4回(新春号、春号、夏号、秋号)発行し、名古屋工業会のホームページに掲載します。

詳細は、名古屋工業会のHPにて御確認ください。
<https://www.nagoya-kogyokai.jp/koukoku>



お知らせ

会誌「ごきそ」は2024年春号から春夏秋冬の年4回発行とし、そのうち1回を正会員全員に配布させていただきます、その他の回については、ホームページに掲載することとなりました。

それに伴い、従来から毎号郵送を希望されておりました会員への郵送の取り扱いは、今回をもちまして終了とさせていただきますので、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

今後は当会HP (<https://www.nagoya-kogyokai.jp/>) より全号ご覧いただける形となりますので、お楽しみください。

※HP上で会誌「ごきそ」をご覧の際、
ログイン画面より下記パスワードを入力ください。
【パスワード:gokiso5298】

